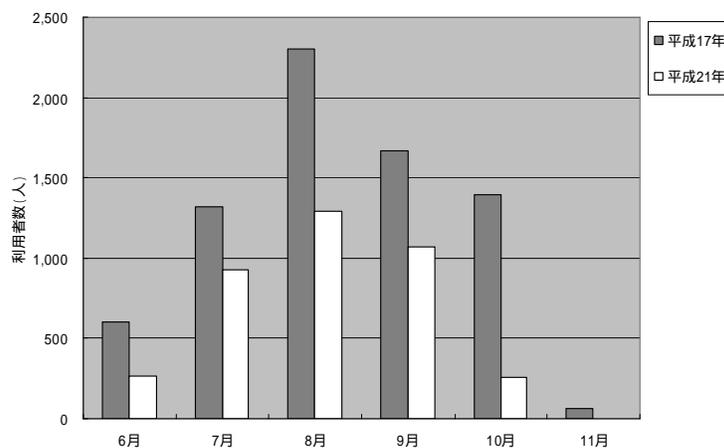


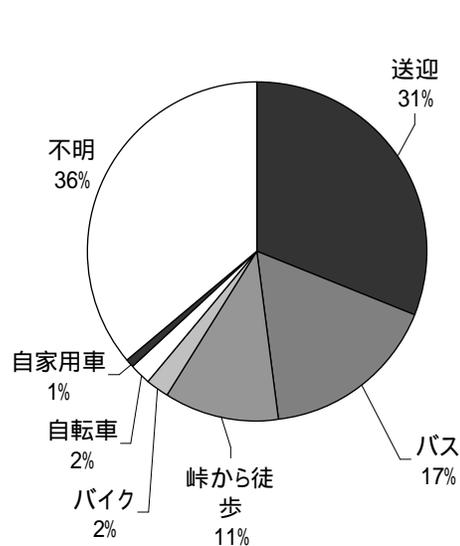
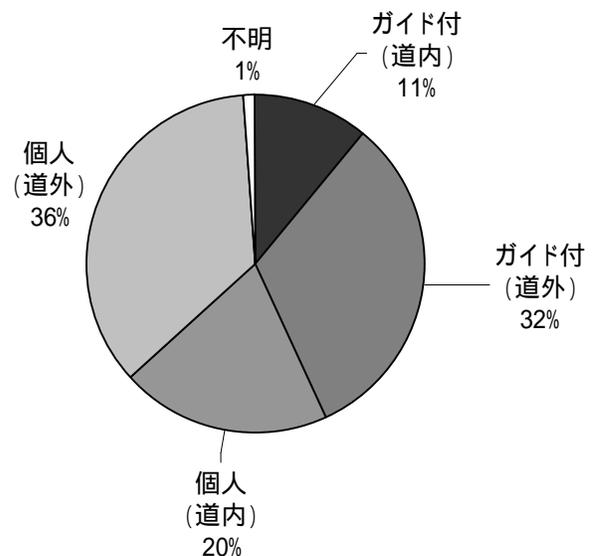
## 羅臼湖地区における課題と対策

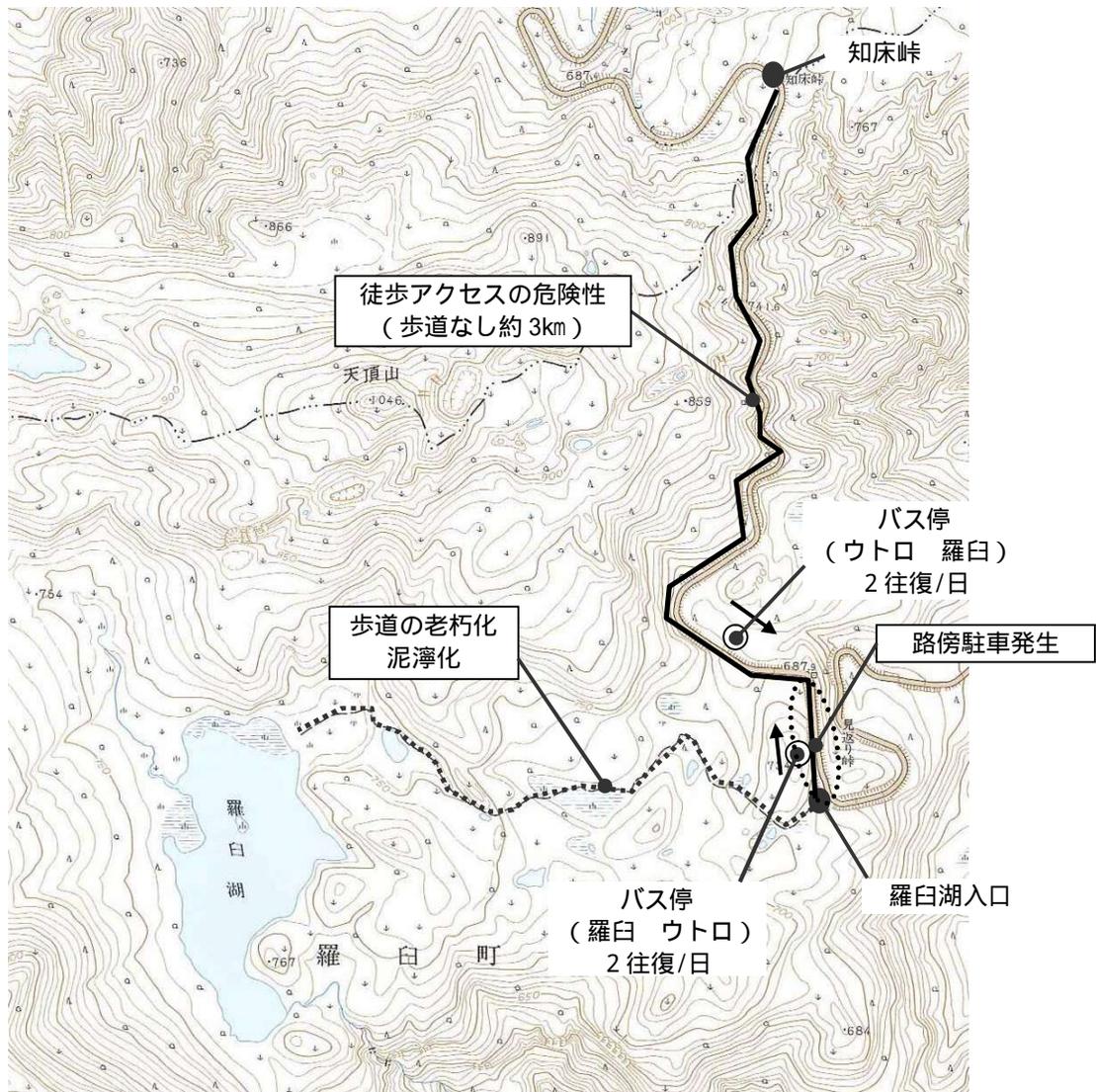
## 1. 利用状況

- ・ 知床横断道路に面し、羅臼湖歩道入口が設置され、歩道は北海道により木道整備が行われている。知床横断道路は知床峠を除き通過利用を原則としている。
- ・ 駐車場、駐車帯の整備はなく、利用者は路線バス（1日2往復）、ガイドツアーなどによる送迎、知床峠からの徒歩等にてアクセスする必要がある。
- ・ 利用期間は主に5月中旬から11月上旬となっており、8月の利用がピークである。平成21年は3,810人/年となっている。（平成17年：7,353人/年 50%減少）
- ・ ガイドツアーの利用率は4割となっている。（平成20年度入山簿による）
- ・ アクセス方法としては送迎が3割、バスが2割弱、徒歩が1割、その他不明が4割となっている。（平成20年度入山簿による）



図：羅臼湖の利用者数（カウンターデータ）

図：羅臼湖のアクセス方法  
平成20年度入山簿の解析による図：ガイドツアーの割合  
平成20年度入山簿の解析による



図：羅白湖概況図



写真：左-路傍駐車の状態 右-歩道の泥濁化の状態

## 2. 課題

## 利用による自然への影響および自然体験の質の低下

- ・ 来訪者の利用により、歩道の拡幅、泥濘化が進行しており、歩道周辺の植生への影響が懸念される。
- ・ 来訪者の利用により、羅臼湖にふさわしい自然体験の質の低下が懸念される。
- ・ 来訪者により、羅臼湖周辺において帰化植物の侵入が懸念される。

## アクセスの問題

- ・ 羅臼湖入口までの利用者のアクセスについて、安全性の確保が必要である。  
( 路線バス、ガイドツアー送迎等の乗降時の安全性の確保、知床峠からの徒歩利用時の歩行者の安全性確保 )
- ・ アクセスが不便であるため路傍駐車が発生しており、交通安全上の危険性がある。

## 施設整備の問題

- ・ 木道の老朽化により、歩道の安全性が懸念される。
- ・ 入口表示の手法やトイレの設置等についても検討の必要性が指摘されている。

## 3. 対策

## 課題 利用による自然への影響および自然体験の質の低下

対策：現状の利用状況等をアンケート調査実施により把握し、羅臼湖利用のあり方を検討  
( 利用者数、利用者層の把握、利用者の求める利用の質の把握等 )

## 課題 アクセスの問題

対策：安全を確保するアクセス方法の検討  
( 路上駐車状況の把握、対策実施にあたっての法的諸条件の整理、バスや送迎車両の安全な乗降方法の検討、徒歩利用者の安全確保 )

## 課題 施設整備の問題

対策：羅臼湖の歩道の現況の整理 ( 課題の抽出、植生調査の実施等 ) を行い、具体的な対策を検討

## 4. 参考資料（平成 17 年度策定 知床半島中央部地区利用適正化基本計画）

	エリア名	現状のタイプ	理想のタイプ	基本的方向性
18	羅臼湖	B -	B -	□ - 1
<p>高山帯の湿原群を巡るルートで、近年利用者が増加傾向にある。湿原植生の保護を最優先とし、静寂な雰囲気の中でより質の高いトレッキング利用による自然体験を提供する場所とする。</p> <p>羅臼湖歩道入口へのアクセス手法としてシャトルバス等の導入(羅臼温泉～知床峠～ホロベツ～ウトロ)と併せて専用停車帯等利用の安全対策及び横断道路での違法駐車対策、入口表示の手法等について検討を行う。</p> <p>近年、利用者が急激に増加しており、今後当該地の自然環境や体験の質に悪影響を及ぼすおそれがあることから、必要に応じて一定の「利用ルール」の下でのコントロールされた利用の検討を行う。また、より質の高い自然体験を得ることができるガイドシステムについても検討を行う。</p> <p>羅臼湖歩道は、既存施設の破損箇所等の修復及び沿線の植生保護のための必要な整備や立入防止ロープ柵等により保護管理を行う。</p> <p>シーズンには定期的な巡視を行い、植生の保護状況等を把握し、必要な対策を講じる。また、外来種の侵入状況のモニタリング及びその対策等についても検討を行う。</p>				